

ブックファームガーデン

高校生ボランティア・アワード
2022

どんな花にも「華」がある ～いけばな文化の継承と ロスフラワーの削減～

私たちブックファームガーデンは、2019年から街の図書館の入り口に有志でいけばな作品を展示しています。

元々は華道家元池坊の伝統文化教室でいけばなを習う仲間の中から、現在5歳から22歳まで10名が、学生ボランティアメンバーとして活動しています。（現在、大学生メンバー2名が代表を務めており、来年度からは私たち高校生が代表を務めます）メンバーが交代でいけばな作品を展示して、一年間図書館に花を絶やさないと心をかけています。

花は生き物であり、展示をしただけでは終わりではありません。街の人々に楽しんでいただくためにも、また花自身のためにも、日々美しい状態を維持することが必要です。メンバー間で連携しながら、花の切り戻しや花器の洗浄、展示場所の清潔維持につとめています。また日本古来の季節行事や、現代の季節行事に合わせた花を飾ることで、現代社会の忙しさを目をつけることの減ってしまった「日本の四季」にも、目を向けていただく機会を目指しています。

さらに、地域の方々に自分たちの街の花き産業に興味を持っていただきたいと思い、地域の花を使った作品も展示してきました。近年ではフラワーロスが問題にもなっていますが、ロスフラワー（選外品や廃棄予定の花）を積極的に作品に取り入れる試みもしています。



お正月、夏休み、卒業シーズン
季節の花々の一例



端午の節句
菖蒲の代わりに
地元産の
シャーマンアイリス



私たち高校生メンバーでの
エントリーです！



先輩たちと
一緒に製作中



地元産の
アリストロメリアも、
他の作品の残り花と
合わせてリメイク

活動の目的・志

- ① 伝統文化の継承**
「いけばな」という古き良き伝統文化を私たち若い世代で継承すること
- ② 地域の花き産業の応援**
地域の花々と地域の方々と繋ぐお手伝いをする
- ③ ロスフラワー問題の解消**
「自然の花を生かす」いけばなの発想でロスフラワーを最大限に活用すること

チーム「ブックファームガーデン」

朝日中高生新聞（左）
神戸新聞（右）
それぞれ取り上げていただきました

町への感謝と愛情を花に込め

クワライナ後援で国産イメージ
平和への願い込め生け花
神戸北神図書館に2年生の作品

←北神が誇る「神戸リリイ」が主役、気合の一作です！
昨年は池坊主催「花の甲子園」にも出場し、いけばな業界内部に対しても活動の広報を行いました。

大学生は
小学校でのいけばな体験の
指導ボランティアも。
次は私たちが！

花本来の美しさや命の尊さを学ぶ

いけばな人口は減少傾向

いけばなは日本が誇る伝統文化の一つですが、華道人口は年々減少傾向にあります。技術のみでなく、花の命をあるがままに花器に表現する精神性も含めて、日本独自の芸術文化としてぜひ受け継がれていくべきものと、私たちは考えています。

華道業界も、SNSなどを用いて若者への発信力を高めていっています。高校生である私たちは、まず自分たちがいけばなを修練すること、また一番身近な人々にも鑑賞の喜びを体験していただくことで、その発展を手助けできたらと考えています。



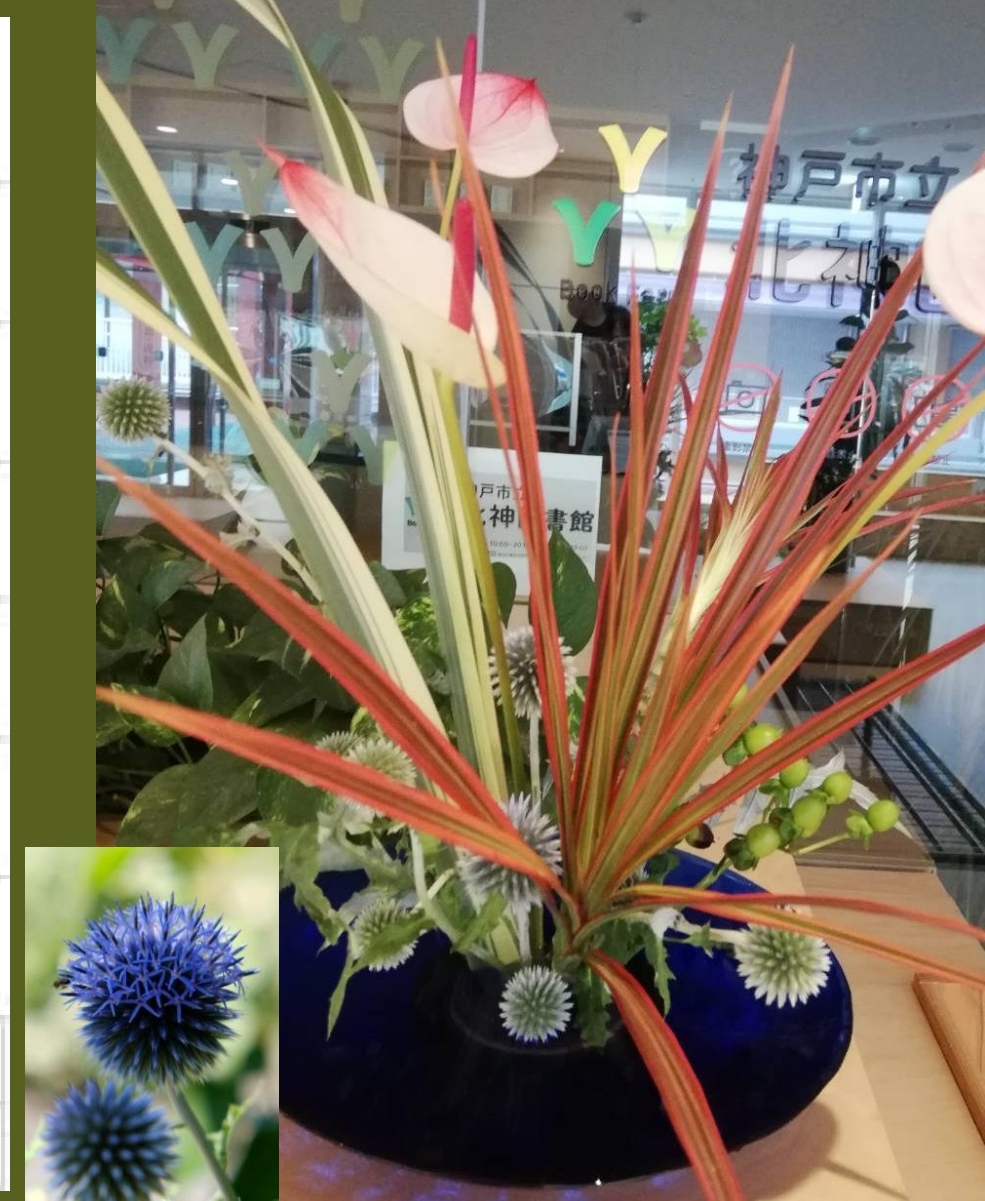
社会科学 第50巻第4号 より引用

破棄される花の新しい使い方

花きの消費は低迷、フラワーロス問題の浮上

いけばな人口同様に、花の消費も若者を中心に減少傾向にあります。消費低迷は花き産業をひっ迫し、さらに原油高などの影響も受け、花きの世界にも物価高騰の波が来ています。

一方で、コロナ禍で大量の花が需要を失い、廃棄処分となり「フラワーロス問題」が注目され始めました。実際にはフラワーロスには、注目されている「需要と供給バランス崩壊によるロス」と、元から花き業界にあった「システム上のロス」の2つの面があるとされています。



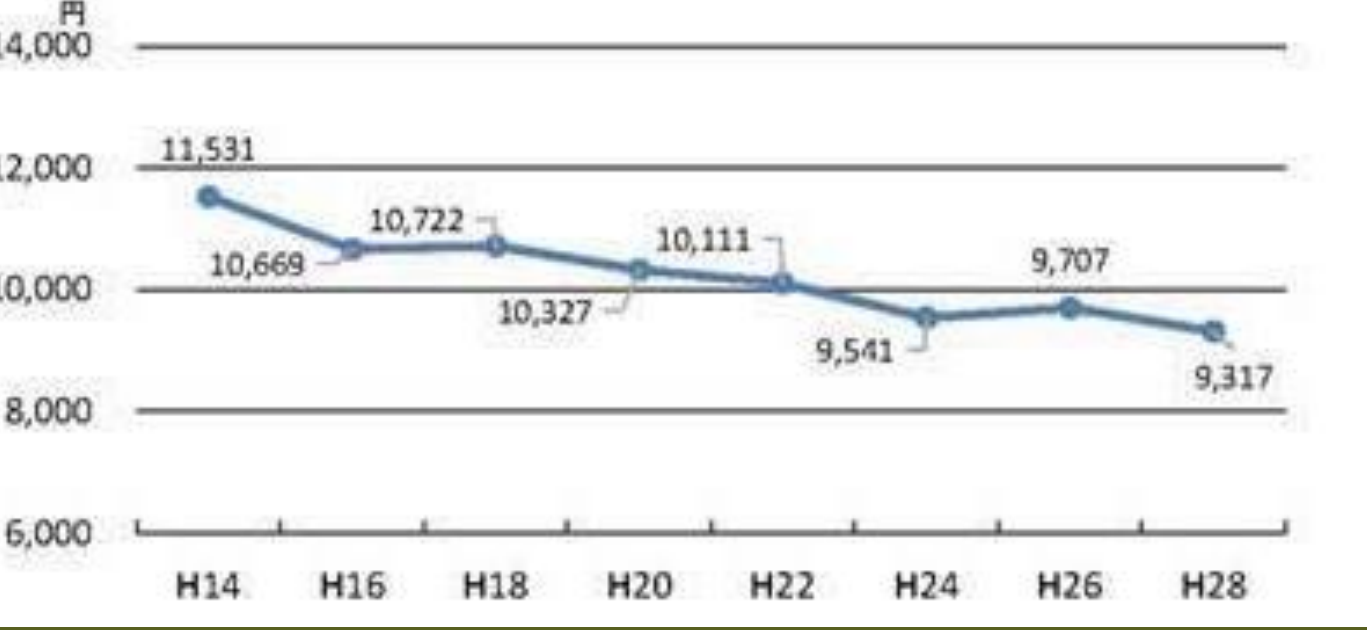
システム上のフラワーロスとは、規格外の品であることで店に並ぶことなく破棄される花や、美しい時期を逸してしまったり、使われないまま破棄されてしまうロスです。私たちはこのシステム上のロスに注目しています。

規格外品は、花数が標準より多すぎたり少なすぎたりする、茎が短すぎる・曲がっている、発色が標準より薄い、などの理由で選外となっています。ロスフラワーの活用には、ドライフラワーやプリザーブドフラワーが用いられることが多いですが、いずれも長期保存を目的とした、生花とは違った美しさの形です。

花の鮮度の高い時期にもさらに美しく花を活かすことは、ロスフラワーの価値を高めるのではないだろうか？というのが、私たちの着眼点です。

←私たちの最新の展示作品です。
ルリタマアザミは本来、花が瑠璃色で茎が枝分かれしていないものが流通していますが（左下が一般のルリタマアザミ）、作品には枝が三つまたと発色が十分ではなく瑠璃色が弱いロスフラワーを用いています。
ロスフラワーでも、イガイガの形が十分可愛く、楽しめます♪

切り花の1世帯あたり年間購入額推移



農林水産省 花きの現状について（H29年7月）より引用

何より、私たち自身が花の命に触れること、花を通じて自己表現をすることを、心から楽しんでいます。そして、自分たちが楽しんでいる実感が、サステナブルなボランティアにつながると考えています。

ブックファームガーデンの これまでとこれから

これまでのいけばなボランティアで感じたこと

😊 地域の方々からの嬉しいお声かけ

私たち自身、始める前は身の回りに花の無い生活に慣れてしまっていました。そのため、初めは展示が受け入れられるのかと不安でしたが、「素敵ですね」と声をかけてくださる方がたくさんいました。

生活の中で花の美しさに触れたり、命のみずみずしさを感じると、自然と笑顔・コミュニケーションが生まれること、花のある生活の素晴らしさを自分たちも実感できました。

😓 継続の難しさ

全員学生で、テスト、部活、時には入試や就活などでそれぞれに忙しい時期が重なりました。予定をやりくりしてはいましたが、花の展示や維持には大変苦労し、数日間展示が途切れてしまうことが時にありました。

これからの展望・目標

引き続き、美しいいけばな作品の継続した展示を目指す
地域の花き協会とご相談し、ロスフラワーを継続的に活用できる仕組みづくり
いけばなをしていない人もロスフラワー活用ができるような、情報の発信



ブックファームガーデン

兵庫県の北神地区で図書館にいけばな（池坊）を展示しています。5歳（年長）から22歳（大学4年生）まで現在10名で活動中。チーム名は、展示させていただいている図書館の愛称「ブックファーム」にちなみ、人がたくさん集まる花いっぱい「庭」のように、ファーム＝図書館を彩ることができれば、と「ブックファームガーデン」とつけました。